

あさがお



花言葉:「愛情の絆」「堅い結束」

特集

| 海老名総合病院 脳神経外科 |

脳卒中などの救急医療に365日24時間対応 早期のリハビリ導入で機能回復を促進

| 座間総合病院 整形外科 |

肩・膝疾患のスペシャリストたちが 質の高い医療を提供し続ける

AREA TOPIC | 座間総合病院 | 紹介患者専用窓口を設置しました



脳卒中などの救急医療に365日24時間対応 早期のリハビリ導入で機能回復を促進



常勤医5人体制で脳卒中を中心とする救急医療などを担う脳神経外科。時間との勝負が求められる救急医療では、限られた時間の中でも状況に応じた最善の治療法の提供を心がけています。リハビリや脳卒中の予防治療なども強みに、地域の先生方と連携して患者さんを支えます。

脳神経外科の診療体制

2008年に新設された脳神経外科は、医師2人でのスタートでした。開設当初から地域の医療需要が非常に高く、大学病院からの常勤医師派遣による増員によって、現在は常勤医5人体制にまで拡大しました。土日や休日は非常勤医師2人も加えたさらに手厚い診療体制で、365日24時間ハイレベルな診療を行っています。

地域の高齢化が進み、今後さらなる医療需要が見込まれるため、将来的には常勤医7人体制の実現が目標です。

地域の最後の砦を担う救急医療

三次救急医療施設に認定される地域の中核病院という特性上、脳神経外科では脳卒中や

頭部外傷などの救急医療を中心に診療を行っています。地域に脳神経外科の入院・手術に対応できる医療施設が非常に限られているため、海老名市、座間市、綾瀬市など、救急搬送の受け入れは広範囲に及びます。

脳神経外科の疾患は「時間との勝負」という特性があるため、日頃から近隣の救急隊や開業医の先生方との連携に力を入れています。脳卒中はもちろん、半身まひ、呂律障害などの症状がある方は「迷わず当院に送ってください」とお伝えしており、地域の患者さんにもそういった認識が浸透してきているように思います。

脳卒中の予防治療、顔面けいれんなど 専門治療にも幅広く対応

救急医療以外では、脳血管障害や頭部外傷、脳腫瘍など脳神経外科手術全般に対応するほか、血行

再建術など脳卒中予防のための治療や、三叉神経痛、顔面けいれんなど、他院ではあまり対応していないような専門治療にも積極的に取り組んでいます。

脳卒中の治療に関しては、近年はより高度な医療を提供できる施設に集約化される傾向にあります。当院は今後も現在の診療体制を維持し、脳卒中の超急性期治療に対応できる医療施設として、地域に貢献し続けたいと考えています。

土日、祝日もリハビリを実施

当院は高度急性期病院でありながら、リハビリの体制が充実していることも特徴の一つです。入院後、翌日からリハビリを開始し、土日・祝日も含めた365日、理学療法士らによるリハビリを常時行っています。超急性期治療から術後の機能回復まで含め、脳卒中をトータルで診る環境が整っていることは、当院の大きな強みでしょう。

さらに、急性期の治療を終えた患者さんへリハビリ専門病院など、地域の後方支援病院にスムーズにおつなぎする地域医療連携体制も構築されています。同一グループの座間総合病院には、回復期リハビリテーション病棟、地域包括ケア病棟、療養病床がありますので、グループ内連携によって、回復期から慢性期まで幅広い医療ニーズに対応可能です。

患者さんにとってベターな選択を

診療で大切にしているのは患者さんの立場

で考えることです。患者さんからすれば、頭を開ける手術など最も受けたくないはずですから、開頭手術以外の選択肢がないかをまず考えます。その結果、開頭せざるを得ない場合も、患者さんやご家族に納得して治療を受けてもらえるように、丁寧かつ細かい説明を行います。時間的な余裕がない救急医療においては、病状と治療法を端的に説明しつつ、治療のタイミングを逸することがないよう適切な治療を迅速に行うことが重要です。その場合も後日、改めて病状説明の時間をしっかりと取るように徹底しています。

なぜ脳神経外科医になったのか

私は親を肝臓の疾患で亡くしており、肝臓を専門にすることも考えたのですが、研究対象としての「脳」にとても興味を引かれました。もともと外科で経験を積んできましたから、最も複雑な臓器である脳に直接アプローチできる脳神経外科の道に進むと決めました。

ハード面の充実で救急医療体制が拡充

当科は救急受け入れが非常に多い診療科で

す。来春完成予定の新棟では、救命救急センターの病床は、現在の20床から30床に、脳卒中ケアユニットも3床から6床に増床されます。ハード面が充実することで、より急性期医療に特化した病床選択が可能になり、今まで以上に質の高い救急医療が提供できると期待しています。

地域の密な医療連携で 患者を支える

脳卒中は一刻を争う疾患です。重要なのは、救急隊と連携してまずは速やかに搬送していただくこと。そして一刻も早く状況を落ち着け、急性期を脱したらリハビリの専門病院でリハビリを受けられるようにして差し上げることです。

その後も、投薬の継続、経過観察などのフォローが必要のため、地域の脳神経外科を標榜されている開業医の先生方とは常にやりとりをさせていただいています。海老名市、座間市、綾瀬市を含む県央地域における脳卒中の救急診療体制を維持するためには、地域の医療機関との連携は不可欠です。今後ともご協力のほどよろしくお願い致します。

副院長・脳神経外科部長

小林 智範 Tomonori Kobayashi



2000年、山梨医科大学(現:山梨大学)卒業。東京女子医科大学病院脳神経外科に入職。2008年に海老名総合病院脳神経外科部長就任、2011年4月に東京女子医科大学准教授就任、米国留学を経て2019年4月に副院長就任。

患者さんのご紹介につきましては、患者サポートセンターまでご連絡ください。

海老名総合病院 患者サポートセンター TEL 046-234-6719(直通) 神奈川県海老名市河原口1320



肩・膝疾患のスペシャリストたちが
質の高い医療を提供し続ける

中脇 充章 × 鈴木 航

Mitsufumi Nakawaki

Kou Suzuki

中脇医師、鈴木医師が2020年4月に座間総合病院に着任して2年。肩、膝疾患の専門医ということもあり、地域での認知度も上がり紹介数も増加しています。座間総合病院の整形外科の特徴、お二人のご専門についてお話を伺いました。

幅広い整形外科疾患から専門的な疾患までの治療、手術に対応

肩、膝の疾患は専門医にお気軽ににご相談を

中脇 整形外科の疾患は四肢体幹と広範囲に及び、スポーツ、外傷、変性疾患や骨粗しょう症などの代謝性疾患と多岐に渡ります。当院は一般的な整形外科疾患の診療に加えて、肩、脊椎、膝の専門の医師がおります。手術なども含め専門医が対応できるのが一番の強みだと思います。私が入職した二年前から常勤医師の人数も増え、地域からご紹介いただく機会も増えてきました。

鈴木 手術件数も着々と増えています。これまで骨折などの外傷が主でしたが、専門の医師がいることで脊椎、肩、膝の待機手術も増えています。もちろん、ご紹介いただいで即、手術ということはありません。患者さんご本人の希望に沿った最適な治療を提供できるよう心がけています。

中脇 私の専門は肩疾患ですが、整形外科の中でも肩疾患は診断がきづづらい箇所でもあります。肩が痛い、上がらない、動かしづらいなど、四十肩、五十肩と決めつけるのではなく、症状が長く続いたりする場合は気兼ねなくご紹介いただいで検査を受けていただければと思います。

また、肩疾患のスポーツ外傷についてもお気軽にご相談ください。選手とまではいかなくともスポーツライフを楽しみたい方、若い方から高齢の方まで手術を含め対応しています。脱臼、腱板断裂など、手術は関節鏡視下の低侵襲の手術を適切に行っております。

鈴木 私は大学病院で一般整形外科研修後、膝関節専門の病院で11年間治療に携わりました。そこでは医師3名で年間400件以

上の膝関節手術を行ってきました。もし手術を考えているならば、専門医に見てもらおうのがベストです。膝の場合は、膝関節痛からスポーツ障害に対する半月板修復や靭帯再建術、高位脛骨骨切り術による関節温存手術などで地域に貢献できればと思います。

また当院は、人工関節・リウマチセンターと連携し患者さんの背景に合わせた対応が可能で、例えば、50代で半月板損傷を患い関節温存手術を行って10年後人工関節を入れるなど、人工関節に至るまでは骨切り術などの関節鏡視下手術で対応させていただきます。その膝を最後まで責任をもって診させていただきます。

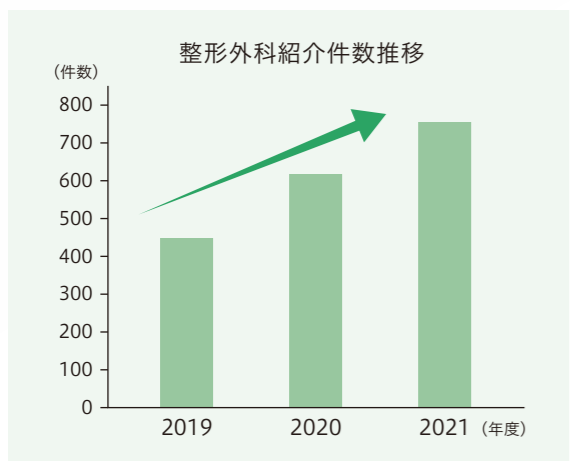
中脇 当院は地域連携も充実しており、様々な職種と連携して患者さんを幅広く受入れできると思っています。例えば、手術でなくても圧迫骨折などで自宅での介護が難しい方など、地域包括ケア病棟や回復期リハビリテーション病棟が備わった当院では、様々な応用が利きますので、ご相談いただければと思います。

患者さんに寄り添い、地域に寄り添う診療を心がける

中脇 整形外科は外科の中でも、悪いもの

院内の連携が支える
整形外科チーム

鈴木 人工関節・リウマチセンターとの連携はもちろんのこと、整形外科では単に手術療法のみを行うのではなく、各種の保存療法、とくにリハビリテーション科とは密接な連携をとりながら診療をすすめています。膝疾患はリハビリがないと成り立たない、整形外科の中でも特にリハビリが必要な疾患です。入院はもちろん、外来リハビリテーションの患者さんについても、定



どちらかという診断学というよりは治療学で、病名診断自体はつくのですが、そこから先で悩むことも多いです。同じ病気でも見つけた時期や、その患者さんのバックグラウンドによって治療法が少しずつ変わってきます。患者さんが望むような結果に一番近づく治療法を選択したいと常に考え、よく話しあって希望をお聞きして治療方針を決定していきます。

鈴木 ご紹介いただいた患者さんが術後退院される際には、ご紹介元に詳細な結果をご報告させていただいております。このような積み重ねが地域との信頼に結びついていければと考えております。もちろん手術の要否や疾患の軽量を問わず、整形外科疾患の症例についてお気軽にご相談ください。今後も地域の先生方との関係を大切に、症例を積み重ねてまいりたいと思っています。



整形外科部長
中脇 充章
北里大学(2009年卒)
[資格] 医学博士、日本整形外科学会 整形外科専門医、日本スポーツ協会 公認スポーツドクター
[専門分野] 肩疾患・整形外科全般



整形外科部長
鈴木 航
獨協医科大学(1999年卒)
[資格] 日本整形外科学会 整形外科専門医
[専門分野] 膝疾患・整形外科全般

患者さんのご紹介につきましては、患者サポートセンターまでご連絡ください。
座間総合病院 患者サポートセンター TEL 046-251-3700(直通) 神奈川県座間市相武台1-50-1



救急から一般診療、在宅医療まで、地域医療を学ぶ

消化器内科

太田 貴寛

Takahiro Ota

呼吸器内科

長谷川 智貴

Tomoki Hasegawa

後期研修医(専攻医)を受け入れている東埼玉総合病院。地域密着型の病院における診療や二次救急など、大学病院とは違う環境の中で、若手医師たちが日々研鑽に励んでいます。

地域密着の医療が魅力

太田 後期研修の1年間は、地域の病院で病気を幅広く診てくれるという位置づけがあります。その中で当院は、二次救急をしっかりと受け入れているので、救急医療を広く経験できるのではないかと思います。希望しました。私は、消化器内科を専攻していますが、内科の医師として当直を受け持ち、救急患者を診るとなると内科全般、もしくは内科の病気だと思つて診ていたら外科疾患だった、ということもたくさんありますので、いろいろな疾患に適切に対応できるようになりたいと思っています。

長谷川 私は、がん患者さんの在宅医療や看取りに興味があるのですが、当院は地域医療にも力を入れているので、自分の将来にとって後期研修の中の1年間を有意義に使えらると思います。特に、在宅医療は大学病院ではあまり行っていないので、在宅でどのような医療ができるのか、どのようなサービスを使うのかなど、病気を治すだけではなく、その後患者さんにとのよ

うな手助けができるのかに興味がありました。また、初期研修医として1カ月間研修した時に、当院が地元医師会から受託している在宅医療連携拠点「菜のはな」で勉強させていただきました。医療のことはもちろんですが、地域の住民の皆さんの悩みを聞いて解決に導くなどの経験は、とても勉強になりました。

太田 「菜のはな」では、神社の隣にある集会所や地域のコミュニティセンターなどに行つて、高齢者と一緒に体操をしたり、



患者目線の診療を心がける

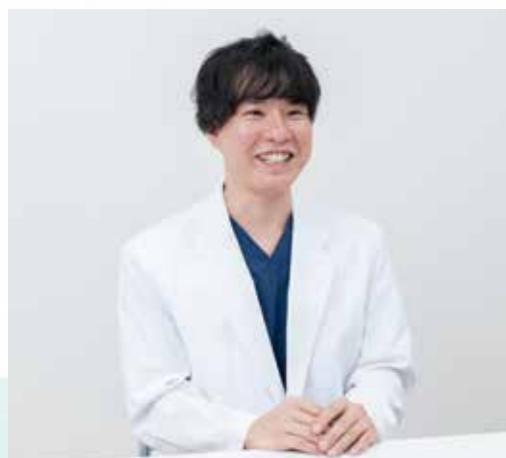
健康に関する啓発活動をしたり、往診に行つたり。大学病院では専門的な治療が多いのに対して、地域密着で全人的なサポートすることができたのは、とても良い経験だったと思っています。

同期や先輩に相談しやすい環境

太田 当院での専攻医は現在、7人。みんな仲が良く、仕事のことを相談することはよくあります。カルテ上のオフィシャルな情報交換以外にも、画像を見てほしいとか、こんな症状だけどんな薬を使ったら良いと思うかなど、ちょっとしたことでも気軽に相談できます。

長谷川 コロナ禍で懇親会などはできませんでしたが、仕事のことはよく話します。大学だと医局ごとに部屋があるのですが、当院は一つの大きな部屋で皆一緒なので、実際に、私の後ろの席に消化器の先生がいて、気軽に相談ができて助かっています。

また、以前救急当番の時に、最初は食中毒という情報で来た患者さんが、診てみたら腸穿孔だったということがありました。手術が必要なため外科の先生に連絡をしたら、すぐに診察してくださいました。同期も相談がしやすいですが、病院全体でも診療科の垣根が低くて、とても相談がしやすいです。



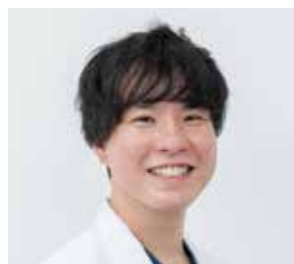
太田 心がけているのは、患者さんの目線で話をすること。医師と患者さんの間に、医学知識の大きな差があるので、普通に話しても知識の勾配によって上下の立場になりがちです。ですから、意識してそうならないようにしないといけませんし、患者さんもそういうことを感じると、聞きたいことも気軽に聞けなくなってしまうですね。決して、そんなことにならないように心がけています。当院は地域密着が強く、外来でおばあちゃんを診た次の日にはその旦那さんや娘さんが診察を受けに来る、家族の人といういろいろな場面です。つながりを感じることが多々あります。よ

長谷川 私は丁寧に診察することを大切にしています。患者さんの訴えに対して、どのような疾患が考えられるのか。検査をして一つ一つ潰していきながら診断をつけること。そしてその結果はわかる範囲で説明して、考えられるほかの診療科に相談するよう、きちんと伝えることを心がけています。

将来は、地域医療の中で患者やその家族をサポートして行きたい

長谷川 私はがん患者さんの終末期のケアに興味があります。肺がんの治療は毎年ガイドラインが変わるくらい進化している一方で、現在でも予後が良くないのは現実です。今は早期から緩和ケアが入るのがスタンダードで、痛みや苦しさをケアすることで患者さんがつらくないようにすることもできます。将来的には地域医療系の病院などでがん患者さんがなるべく穏やかに、安心して暮らしていけるように、医師としてサポートしていけるようになりたいですね。

太田 同じように消化器のがんもベスト。サポーターティブ・ケアがメインになることも多々ありますが、最期を迎える環境や、本人の納得や家族の理解なども含めて、トータルでサポートできる医師になりたいと思っています。



長谷川 智貴

2018年獨協医科大学卒業。初期研修を経て同大学埼玉医療センター呼吸器・アレルギー内科に入職。2022年に東埼玉総合病院へ。趣味は登山とカーレース観戦。



太田 貴寛

2018年獨協医科大学卒業。初期研修を経て同大学埼玉医療センター消化器内科に入職。2022年に東埼玉総合病院へ。趣味は映画鑑賞。

患者さんのご紹介につきましては、地域連携課までご連絡ください。

東埼玉総合病院 地域連携課 TEL 0480-40-1318(直通) 埼玉県幸手市吉野517-5

地域の親子を支える小児科医療に日々まい進



美しい自然に囲まれた、子育てしやすい町のイメージがある下田市も、医療的ケア児や情緒障害、発達障害といった社会的な課題に無縁ではありません。小児科の常勤医として地域の親子を支える田中医師に、外来やカウンセリング、病棟連携などの取り組みについて聞きました。

小児科の主な患者層

下田メディカルセンターは賀茂医療圏を診療圏とする病院です。地域内に小児科を診ることができ医療機関が少ないため、診療内容は多岐にわたります。

診療内容は主に4つに分けられ、最も多いのは近隣にお住まいのお子さんの急性期および慢性疾患への対応です。2つ目は胃ろう交換やインスリン注射が必要な糖尿病のお子さんなど、小児科医による医療的ケアが必要なケース、3つ目は発達障害や情緒障害などの診断・治療、4つ目は下田を訪れた観光客の救急医療です。

発達障害などの心理的な支援においては、近年は静岡県立こども病院や、伊豆医療福祉センター、静岡県東部発達障害者支援センターが活躍しています。中でも下田を訪れた観光客の救急医療は、学校に行けるようになったり、学校のトラブルが少なくなったりするお子さんも多くいらっしゃいます。

学校や静岡県立こども病院と連携

WISCをはじめとする検査の結果は学校やご家族と情報を共有し、診断後も連携してフォローします。中でも下田が特に力を入れているのが「読み書き障害」です。学習障害の一つで、読んだり書いたりすることに困難を感じるお子さんが増えているため、診断をつけるための「読み書きテスト」を院内で実施しています。診断がついたら、無料で利用できる「電子教科書の活用など、学校やご家庭でできる学習法もアドバイスします。文字が目から入ることが苦手な子は、電子教科書の読み上げ機能を用いて、耳から入る学習法が効果的です。

「書く」ことが困難なお子さんには、部首カルタを使って部首を分けたり、ひらがなの書き方をレクチャーしたりして、一緒に勉強する方法をお伝えしています。これは他の医療機関ではあまり実施していない先進的な取り組みですので、気がかりなことがあれば、まずは一度ご相談ください。

静岡県立こども病院とは常に密な連携を取っています。当院で必要な検査まで行い、静岡県立こども病院に紹介して診断をつけた後、オンライン診療を続けながら、主な治療は当院

「アスタ」などと連携して治療にあたることも増えてきました。

限られた人員でも他科との連携で充実した小児科医療を提供

現在、小児科の常勤医は私1人であるため、夜間救急および入院治療は休止せざるを得ない状況です。しかし、内科をはじめ他科の医師との協力により、夜間救急はほぼ院内でフォローできています。夜間救急を受診されたお子さんは翌日には必ず私が診察するとともに、現在は月1回の夜間小児救急対応を、近いうちに月2回に増やす予定です。

ただ、日曜の小児科診療はどうしても手薄になるため、土曜の小児科外来ではこれからお子さんに起こり得る症状とその対処方法をしっかりと説明します。事前に親御さんに心構えをしていただくこと

で継続して受けられるケースも増えていきます。また、静岡県立こども病院の医師とは共同研究なども行い、論文発表などにも協力しています。

共働き世帯や観光客まで幅広く支える

当院は「かるがも病児保育室」を併設しています。下田市唯一の病児保育室として平成29年に開設されて以来、仕事と子育てを両立する家庭を支えてきました。感染症対策も万全で、定員に空きがあれば当日でも利用可能です。

コロナ禍でここ数年は、観光客が激減しましたが、最近はやや戻りつつあります。熱中症やクラゲに刺されたなどで小児外来を受診する急患に、下田に来て良かったと思ってもらえるようなフォローができたらうれしいですね。

基本的に不要な検査はなるべく行わない方針で、本当に必要な検査なのかは常に考えています。ただし、必要な検査は躊躇なく行い、治療が必要なお子さんを見逃さないよう、これからも心身両面から地域の親子を支え続けていきます。



小児科

田中 健 Takeshi Tanaka

2009年日本医科大学卒業。公立福生病院、市中の地域周産期母子医療センター、重症心身障害児施設を併設した二次救急病院を経て、2018年8月より下田メディカルセンター救急外来。2019年3月からは、常勤医として小児科を担当。

小児カウンセリング外来を拡充

下田メディカルセンターでは、臨床心理士や臨床発達心理士らによる小児カウンセリング外来を、従来の2人から3人体制に拡充しました。不登校や情緒障害、注意欠陥多動症(ADHD)、自閉スペクトラム症(ASD)、学習障害など発達に障害を抱えたお子さんの受診が下田でも増えており、医師の診察や臨床心理士などのカウンセリングを受けるため、近隣だけでなく東伊豆市や西伊豆市など遠方からも受診されています。

世界でも広く利用されている代表的な児童知能検査(WISC)などの導入により、詳細な傾向の分析が可能なほか、カウンセリングの内容は小児科医がすべて目を通して行います。医師が薬物療法の必要性を判断し、お薬がよく効く疾患では適切な内服をお勧めすることもあります。薬の適切な服用によって症状が緩和

患者さんのご紹介につきましては、地域医療連携室までご連絡ください。

下田メディカルセンター 地域医療連携室 TEL 0558-25-3535(直通) 静岡県下田市六丁目4-10

地域医療連携推進法人 さがみメディカルパートナーズ

12/14(水) 葦沢龍人氏の講演会を開催

地域医療連携推進法人さがみメディカルパートナーズでは、医療連携推進業務の一つとして盛り込まれている「医療介護従事者の共同研修および相互交流」の一環として、12/14(水)18:30～オンライン講演会を開催します(後援:厚木医師会、厚木病院協会、海老名市医師会、座間綾瀬医師会、大和市医師会、大和・高座病院協会…五十音順)。参加対象は病院・診療所などの医療機関、医療介護従事者。

講師は地方独立行政法人東京都健康長寿医療センター保険指導専門部長で、東京医科大学名誉教授の葦沢龍人氏。「保険診療の法制度—安全で良質な医療の提供をめざして—」をテーマに、保険診療について詳しく解説していただきます。

参加ご希望の方は、団体名、参加される方全員のお名前を明記し、メールでお申し込みください。皆さまのご参加を心よりお待ちしております。



葦沢龍人氏

地域医療連携推進法人 さがみメディカルパートナーズ

神奈川県の中核医療圏(厚木市、大和市、海老名市、座間市など)を活動区域として、2019年4月に県内初の地域医療連携推進法人に認定されました。現在、7法人、21施設・事業所が参加しています。

お申込み・
お問い合わせ

地域医療連携推進法人さがみ メディカルパートナーズ 事務局

TEL 046-234-3018 MAIL office@sagamimedical.jp HP http://sagamimedical.jp/

海老名総合病院

新棟の外観が見えるようになりました

来年春、竣工予定の海老名総合病院新棟建設工事が進められています。外側のネットが外され、海老名総合病院のサインも姿を現しました。

また、完成後の運用準備のため「救急ER部門」「手術部門」「外来部門」など6つの運用準備ワーキンググループが発足。それぞれの部門で医師や看護師、事務などの他職種で運用ルールやマニュアル、稼働計画などを検討し、完成後のスムーズな運用開始を目指します。



「JMAグループTOPICS」では、グループ内におけるイベントや取り組み・ニュースなどをご紹介します。

JMAグループ

最高経営責任者に就任



2022年6月、JMAグループ最高経営責任者および社会医療法人ジャパンメディカルアライアンス理事長に費正基が就任いたしました。

今後ともJMAグループおよび当法人をどうぞよろしくお願いいたします。

谷口佳浩理事長の後を引き継ぎ、JMAグループ最高経営責任者を拝命しました。JMAグループは来年、創設50周年を迎え、施設・事業所数42施設、病床数1158床、患者・利用者数160万人という大きな法人に成長しました。しかし、『仁愛の心で地域の皆様とともに』と掲げている理念は、仁愛会の設立当初から受け継がれてきたDNAであり、規模が拡大しても変わることはありません。

地域の皆様の安心した暮らしに貢献するために、医療とケアサービスをワンストップで、かつシームレスに提供できる体制をより強固なものにしてまいります。今後ともJMAグループをどうぞよろしくお願いいたします。

JMAグループ最高経営責任者 費 正基

社会福祉法人ケアネット

特別養護老人ホーム さつき

かながわ高齢者福祉研究大会で優秀賞を受賞

今年で20回目を迎える「かながわ高齢者福祉研究大会」で、特別養護老人ホームさつきが2年連続で研究発表優秀賞を受賞しました(発表者:竹本一貴 共同発表者:作山周平、佐藤北斗、山田亜美)。

発表は昨年の研究テーマに引き続いた内容で、社会的にも問題となっている介護職員の離職率について。昨年の研究発表では『さつきで働き続ける理由』について『人間関係が良好』というキーワードが挙がりました。今年はこのキーワードをさらに調査し、『職員定着率における人間関係の良善性とは～人間関係が良いを可視化する～』をテーマに、『人間関係が良好な職場=助け合いのある環境と関係性』とした研究結果をまとめました。

発表者の竹本さんは、「タイトなスケジュールの中で論文や発表の準備など、集中して行いました。受賞は正直驚きましたが、率直に嬉しいです」と受賞の感想を話しました。



研究チームのメンバーは「『助け合いのある環境=人間関係が良好』という今回の結果から、業務改善や人員配置など、施設として今後、どう業務に落とし込んでいくかという新たな課題も見えてきました」と話しています。

座間総合病院

紹介患者専用窓口を設置しました

10月1日より、地域の医療機関からの紹介患者さんを専門にお迎えする「紹介受付」を1階患者サポートセンター前に設置しました。紹介状をお持ちいただいた患者さんや地域の医療機関から事前に予約をされている患者さんは、「紹介受付」で受付をさせていただきます。落ち着いた空間で受付をしていただき、案内係が各

科受付までご案内いたします。

今後一層、患者さんに安心して受診していただけるよう、また近隣の医療機関から信頼して患者さんをご紹介いただけるよう、地域住民の健康を支える一役を担うため努力してまいります。



紹介受付は患者サポートセンター前に開設

大きな病院は怖い、緊張するといったイメージを持たれている方も多いと思います。照明を明るくしたり、音楽を流すことによって、少しでも緊張がほぐれるように努めています。

患者さんに丁寧にご説明して手続きを進め、案内係が診察室までご案内します

体調がすぐれない方にも極力ご負担がかからぬよう、椅子におかけになっていただき、問診票などをゆっくりご記入いただけます。また、外来の受付まで迷わぬようご案内いたします。



わたしたちが紹介受付を担当いたします

患者サポートセンターのスタッフが受付、ご案内を担当いたします。

皆様を笑顔でお迎えます！

お問い合わせ

座間総合病院 患者サポートセンター

TEL 046-251-3700(直通)

〒252-0011
神奈川県座間市相武台1-50-1